

## 資料 2 御嶽山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解

平成 27 年 1 月 19 日、火山噴火予知連絡会は御嶽山の火山活動について拡大幹事会を開催し、以下のとおり見解を発表した。

平成 27 年 1 月 19 日  
気 象 庁

御嶽山の火山活動に関する  
火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解

**御嶽山の火山活動は引き続き低下してきています。現状で昨年（2014 年）9 月 27 日と同程度ないし上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっています。火口列からの噴煙活動や地震活動は続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。**

御嶽山では、昨年（2014 年）10 月中旬以降、噴火は観測されず、二酸化硫黄の放出量も、昨年 10 月までは 1 日あたり 500 から 1500 トンとやや多い状態でしたが、10 月下旬以降は 1 日あたり 100 トンから 300 トンとやや少ない状態となっています。

火山性微動は、噴火直前から昨年 10 月 6 日まではほぼ連続的に発生していましたが、その後は 11 月 21 日から 23 日に継続時間の短いものが計 4 回発生した以外は観測されていません。火山性地震も、昨年 10 月上旬までは 1 日あたり数十回と多い状態でしたが、その後は減少傾向となり、1 日あたり数回から十数回とやや少ない状態となっています。

国土地理院の GNSS データの解析によると、昨年 9 月上旬頃から御嶽山を挟む基線でごくわずかな伸びと、9 月下旬頃からわずかな縮みの傾向がみられ、12 月までに 9 月上旬頃の基線長に戻っています。

以上のことから、御嶽山の火山活動は低下してきており、現状で昨年 9 月 27 日と同程度ないし上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっています。しかしながら、再び地震活動が高まったり、噴煙活動に変化がみられたりした場合には、噴火活動が活発化する可能性がありますので、観測データを注意深く見守る必要があります。

火口列からの噴煙活動や地震活動は続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾

道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また、9 月 27 日と同規模の火砕流が発生した場合には、地獄谷方向では火口から概ね 2.5 km に影響が及ぶ可能性がありますので、警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。